



相双地方振興局

復興支援・地域連携室だより

◎ 3.11 ふくしま追悼復興祈念行事「キャンドルナイト」

- 東日本大震災から丸6年となる3月11日、犠牲者を追悼するとともに復興を祈念して、相双地方振興局が道の駅南相馬で、「キャンドルナイト」を開催し、様々なメッセージが記載されたキャンドルを1,000本点灯しました。
- ステージイベントでは、LLO（ライブ・ライズ・オダカ）の代表を務める伏見空翠さんが震災当時の体験談を語り継ぎ、原町第一小学校合唱部、原町第一中学校吹奏楽部、浪江町出身のシンガーソングライター牛来美佳さんがミニコンサートを行いました。イベントの最後には、牛来さんと来場者全員で「ふるさと」を歌い、心を一つに通わせ、復興への想いを深めました。



青白い光を灯すキャンドル



伏見空翠さん



牛来美佳さん



原町第一小学校合唱部



原町第一中学校吹奏楽部

◎ 全国東京事務所長会の視察受入

- 2月28日、檜葉町に全国東京事務所長会が視察に訪れました。
- 県内及び町内における復興状況の説明・意見交換に加え、天神岬スポーツ公園の展望デッキからは、建設中の防波堤や除染廃棄物の仮置き場の現状を確認していただき、全国の東京事務所長に復興の“今”を伝えることができました。



復興状況の説明・意見交換



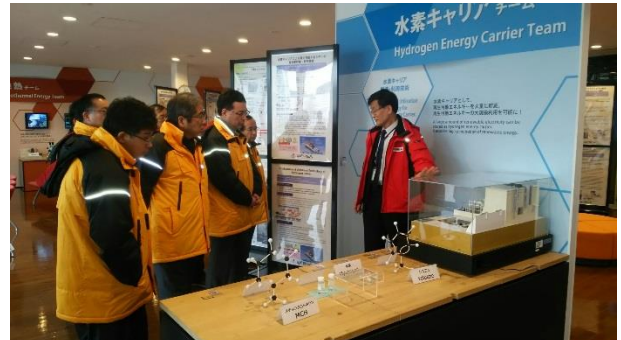
復興状況を視察する参加者

◎ 新生ふくしま復興推進相双地方本部による現地視察

- 2月6日、医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する「ふくしま医療機器開発支援センター」と、再生可能エネルギーの技術開発から実証までを行う「福島再生可能エネルギー研究所」を視察しました。
- 今後、福島県での発展が期待される医療機器産業と再生可能エネルギー産業について、最新の設備を見学し、理解を深めました。



【医療機器開発支援センター】模擬手術室



【再生可能エネルギー研究所】水素エネルギーの説明

◎ 原乳・野菜の出荷制限解除

- 平成28年12月26日、原子力損害対策特別措置法に基づき、管内では南相馬市、檜葉町、川内村、葛尾村で産出された「原乳」について、国からの出荷制限が解除されました。(帰還困難区域を除く。)
- 平成29年3月14日、同法に基づき、富岡町、大熊町、浪江町、飯館村で産出されたハウレンソウ、コマツナなどの非結球性葉菜類等について、国からの出荷等制限が解除されました。(帰還困難区域を除く。)
- 出荷制限の解除が進み、避難地域での営農再開が加速していくことが期待されます。

◎ 産地魚市場での入札再開

- 試験操業の海域に、東京電力福島第一原子力発電所の半径 10～20km 圏内が追加され、平成 29 年 3 月のコウナゴ漁から操業されることとなりました。
- また、試験操業で水揚げした魚介類の産地魚市場での入札をコウナゴで先行実施し、4 月から全ての魚種に拡大して再開する予定です。
本格的な水産業の再開に向けて、大きく前進しました。

【試験操業について】

- 試験操業は漁業再開に向けた第一歩として、各漁業協同組合が、福島県漁業協同組合連合会、国、県と連携して実施しています。
モニタリング検査によって、安全が確認された魚介類を選定し、小規模な操業と販売を行い、流通先の確保と出荷先での評価を調査し、通常操業の実施に向けて対象種、漁業種類を拡大していきます。

◎ JR 常磐線等への中吊り広告掲載

- 平成 28 年 12 月 10 日に常磐線が再開通し、宮城県南部まで通勤圏が拡大しました。相双地方振興局では、平成 29 年 2 月から 3 月にかけて、相双地域への雇用促進、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想等を PR するため、JR 常磐線等の中吊り広告を掲載しました。



雇用促進の広告



福島・国際研究産業都市構想の広告（中吊りの様子）

○相双管内の避難指示解除状況

- 川内村：平成 26 年 10 月 1 日、平成 28 年 6 月 14 日
- 檜葉町：平成 27 年 9 月 5 日
- 葛尾村：平成 28 年 6 月 12 日
- 南相馬市：平成 28 年 7 月 12 日
- 浪江町：平成 29 年 3 月 31 日
- 飯舘村：平成 29 年 3 月 31 日
- 富岡町：平成 29 年 4 月 1 日

編集者：福島県相双地方振興局 復興支援・地域連携室

TEL 0244-26-1115 FAX 0244-26-1120

Eメール sousou.chiikirenkei@pref.fukushima.lg.jp